

(参考別紙1)

【参考】International Wine Challenge 「SAKE 部門」について



2025年にロンドンで開催された SAKE 部門審査会（写真提供：入江啓祐氏）

1 概要

International Wine Challenge（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）は、1984年に設立された、世界的に最も権威あるブラインドテイスティング審査会の一つ。

SAKE 部門は 2007 年に設立。日本国外で行われる SAKE 審査会としては最大かつ最も影響のあるイベントの一つとされている。

日本での開催は、2012 年東京、2016 年兵庫、2018 年山形に続き広島が 4 回目で、2026 年は SAKE 部門の設立から 20 周年の節目の年となる。

（2012 年の東京開催については、福島原発事故を受けての EU 輸入規制等のリスク回避のため日本での実施となった経緯がある）



2 2025年の実績

- 2025年は387社（うち海外が11社）から1,476銘柄がエントリー。

評価	銘柄	受賞者
Champion Sake	七賢 純米大吟醸 白心	山梨銘醸株式会社（山梨県）
Great Value Champion Sake	華秋田	株式会社北鹿（秋田県）
Sake Brewer of the year	—	株式会社新澤醸造店（宮城県）
Prefecture of the year	—	宮城県

- 広島県産日本酒のトロフィーの獲得状況(地域トロフィー含む)

部門・評価	銘柄	受賞者
純米酒部門（地域トロフィー）	特別純米 雨後の月 十三夜	相原酒造（吳市）
スパークリング部門（トロフィー）	賀茂鶴 スパークリング清酒 光壽	賀茂鶴酒造（東広島市）

3 審査方法・評価について

- 審査は「普通酒」「純米酒」「純米吟醸酒」「純米大吟醸酒」「本釀造酒」「吟醸酒」「大吟醸酒」「スパークリング」「古酒」「熟成」の10部門（2025年実績）。各部門でブラインドテイスティングによって行われる。
- 評価は「Gold（ゴールドメダル）」「Silver（シルバーメダル）」「Bronze（ブロンズメダル）」「Commended（大会推奨酒）」の4種類。Goldを獲得した出品酒の中で特に優れたものに「Trophy（トロフィー）」が与えられる（Trophyにはわずかに及ばなかったものの高い評価を得た、産地が異なる次席の銘柄に授与される「地域トロフィー」もある。）。
- SAKE部門の最高賞として、各部門のTrophy受賞酒の中から1点に、「Champion Sake（チャンピオン・サケ）」の称号が授けられる。
- 日本での小売価格が1,500円（税抜・四合瓶換算）以下、かつ生産量が10万本以上（四合瓶換算）という優れたコストパフォーマンスを持った出品酒には「Great Value Sake（グレート・バリュー・サケ）」が与えられ、その中の1点が「Great Value Champion Sake（グレート・バリュー・チャンピオン・サケ）」に選出される。
- 出品酒すべてが高評価を得た酒蔵は「Sake Brewer of the year（サケ・ブリュワリー・オブ・ザ・イヤー）」として表彰される。
- 2024年からは、エントリーした酒蔵が優れた総合成績を収めた都道府県に対して「Sake Prefecture of the Year（サケ・プリファチュア・オブ・ザ・イヤー）」が授与されている。長野県（2024年）、宮城県（2025年）が受賞。

